

低学年ブロック代表授業（指導主事要請訪問）

授業日時：11月26日（水）5校時

教科：算数

場所：2年1組教室

授業者：古川誠也教諭

本校の低学年ブロック（1・2年生）では「課題を理解し、学習の見通しを立てて、学習を進めることができる」子どもの姿を目指しています。

その達成のために、本単元「算数；かけ算（2）」では、下の「目標」のもと、「具体的な手立て」にあるような準備や環境の構成をして授業を展開しました。

単元の目標

	目 標
知識及び技能	・乗法の意味や性質、計算の仕方を理解し、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるとともに、九九（6、7、8、9、1の段）を正しく唱えることができる。
思考力、判断力、表現力	・数量の関係に着目し、乗法が用いられる場面を図、式などで表したり、乗法の簡単な性質（交換法則、分配法則）を見いだしたりしながら、九九の構成の仕方について考え説明することができる。
学びに向かう力、人間性等	・乗法の簡単な性質をもとにして九九の構成の仕方を考えた過程を振り返り、乗法の性質を用いると計算が簡単になったり計算の確かめができたりすることに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

具体的な手立て

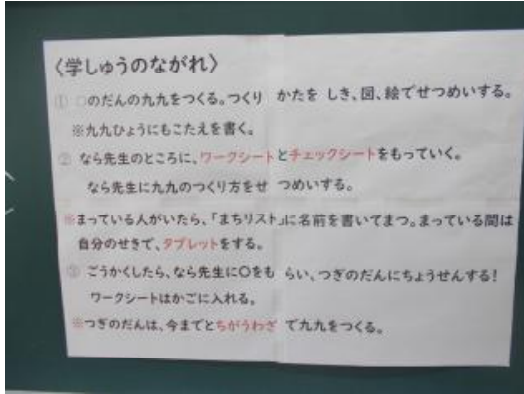
- 生活経験を想起させるような具体物（課題を自分事化できる具体物）
- 学習の進捗具合が確認できるチェックシート
- 児童個々の学習の進捗具合を見ながらの声かけ
- 学習の順や学習形態を弾力的に決定できるような認知的な環境の構成
- ヒントコーナーの設置や具体物を置くなど物理的な環境の構成
- 学習の流れを見通すことのできる活動内容の掲示物 等

11月26日の授業

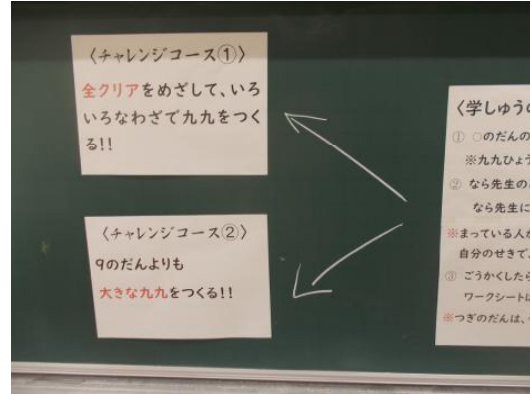
「6、7、8、9、1の段の九九を構成する活動を通して、乗法の分配法則や交換法則に気づき、その九九の計算を確実にできるようにする」というねらいのもと授業を実施しました。「九九を構成する」とは、かけ算の仕組みや性質を理解しながら、九九の答えを導き出すことと言えます。具体的には、「掛けられる数をひたすら足していく『たしたし』」、「直前の積にかけられる数を足していく『前たし』」、「かけられる数を二つ以上に分け、小さくしてからかけ算をした後、その数を足す『分けたし』」、「かける数とかけられる数

を逆にしても積は変わらない『ぎゃく』とし、これらを使いながら、かけ算について理解を深めていくことができました。

学習の様子や環境の構成



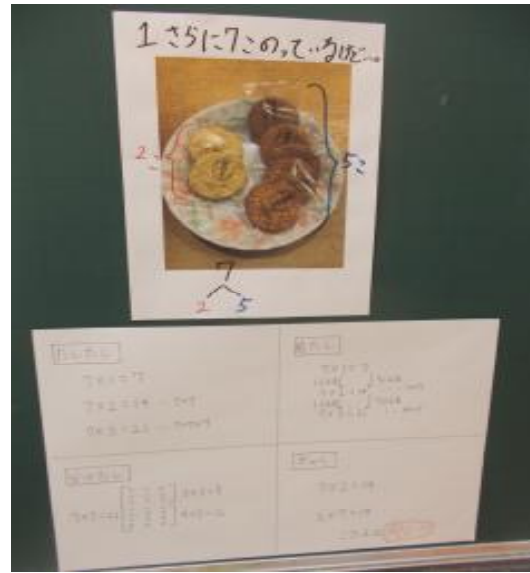
(黒板に学習の流れを掲示しておきます)



(チャレンジコースを設定し意欲を喚起します)

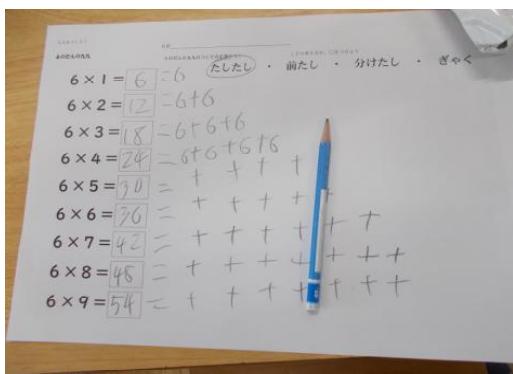


(具体物を置き、思考の助けとします)

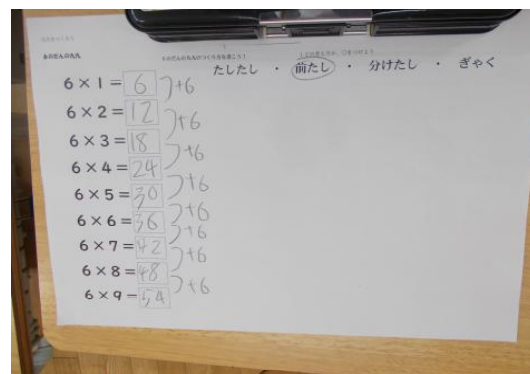


(黒板のヒントコーナー：これは7の段用)

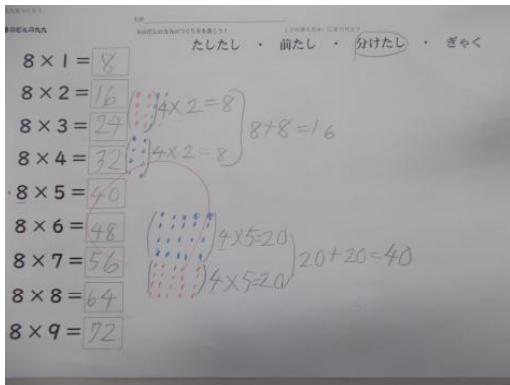
※6、8、9の段用に違う掲示物があります



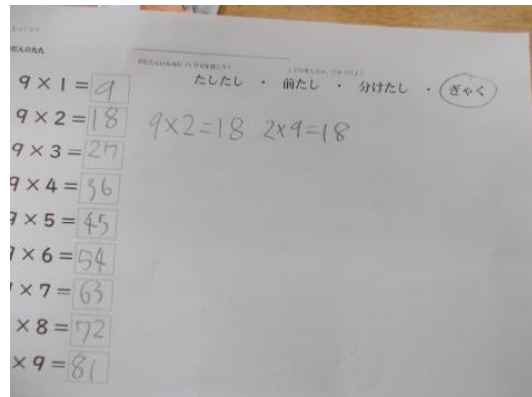
(ワークシート：「たしたし」で実施)



(ワークシート：「前たし」で実施)



(ワークシート：「分けたし」で実施)



(ワークシート：「ぎやく」で実施)

	たしたし	前たし	分けたし	ぎやく	全クリア
6の段	○	○	○	○	
7の段	○	○	○	○	
8の段	○	○	○	○	
9の段	○	○	○	○	
1の段	○	○	○	○	

つけ	学習した だん	つくり方	だれと	できたか
11月	1の段	たしたし・前たし・分けたし・ぎやく	つとむと なたちと	よくできた・できた
11月	2の段	たしたし・前たし・分けたし・ぎやく	ひとりきり なたちと	よくできた・できた
11月	3の段	たしたし・前たし・分けたし・ぎやく	ひとりきり なたちと	よくできた・できた
11月	4の段	たしたし・前たし・分けたし・ぎやく	ひとりきり なたちと	よくできた・できた
11月	5の段	たしたし・前たし・分けたし・ぎやく	ひとりきり なたちと	よくできた・できた
11月	6の段	たしたし・前たし・分けたし・ぎやく	ひとりきり なたちと	よくできた・できた

(一児童の振り返りシート ※下段の「振り返り」から、自分で決めて学習している様子が見られます)

まとめ

「分けたし」や「前たし」の方法を用いて9の段以降のかなり大きな段のかけ算に積極的に挑戦している児童が多くいました。これは「自由進度学習」により子どもたちの意欲を引き出す授業が展開できた結果と考えられます。しかし『自由進度学習』だからできた」と考えるのは性急かも知れません。「自由進度学習」をよりよいものにするために、教師が入念な準備（環境の構成）をした結果と考えられます。今後も、さらにより授業を実践していくために、「チーム水上小」として教職員が一丸となって研鑽を積んでいきたいと思えます。